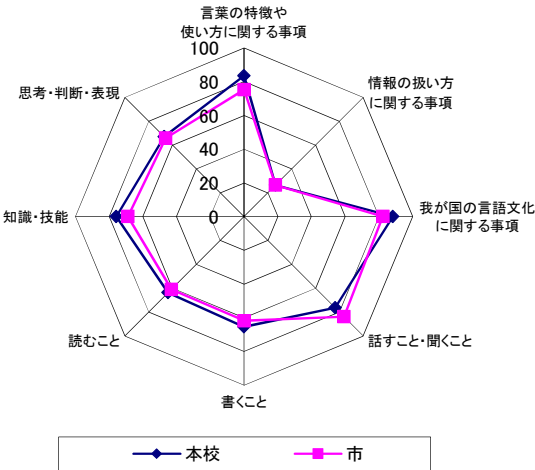


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	83.6	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	26.5	26.5	27.8
	我が国の言語文化にに関する事項	88.2	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	76.5	83.9	84.2
	書くこと	65.4	61.7	64.5
	読むこと	63.7	60.9	61.0
観点別	知識・技能	75.8	68.8	70.3
	思考・判断・表現	66.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

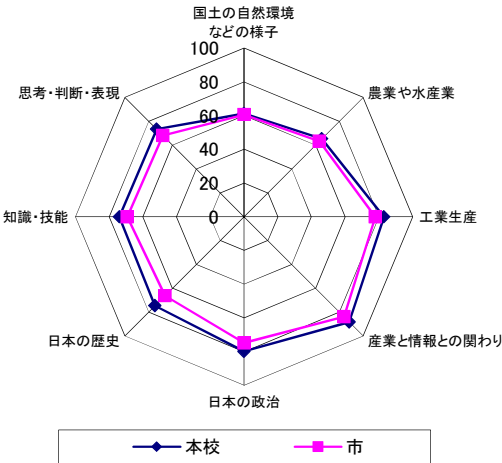
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市と比較して8ポイントほど高い。 ○第6学年配当漢字は、市の平均とほぼ同じ正答率であり、基本的な漢字の読み書きについては定着してきている。 ●既習漢字については定着していないものもある。 ●敬語の問題では、正答率が市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、基本的な言語についての学習、既習事項の復習を行い、基礎基本の定着に努めていく。また、個人用パソコンやAIDリルも活用して習熟を図る。 ・習った漢字を日常的に使うように指導していく。 ・敬語については、敬語を使う相手が誰なのかを明確にする学習を繰り返し行い、尊敬語と謙譲語の区別ができるようにしていく。また、各学級の日常生活での会話等でも機を捉えて指導する。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市と同率だった。 ○資料から必要な言葉を探す問題では、適切な言葉を書き出すことができた。 ●情報と情報との関係について理解し、文章をまとめる問題では、情報を整理したり、組み合わせたりして文章をまとめることに課題が見られる。	・資料から必要な情報を抜き取り活用する活動を様々な教科で取り入れることで、情報の取捨選択をし、条件に合わせてまとめる能力を身に付けられるよう、継続して指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市と比較して5ポイントほど高い。 ○和語・漢語・外来語について理解している。	・漢字辞典などを活用し、語句の由来について興味・関心を深められるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比較して7ポイントほど低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えて、記述することがおおむねできた。 ●話の内容の捉え方が十分でない解答も見られた。	・話の要点が何かを捉えられるよう、目的意識をもって話を聞くことの大切さを継続して指導していく。 ・国語だけでなく、他の教科や学級活動など様々な場面で、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う機会を積極的に設け指導していく。
書くこと	平均正答率は、市と比較して3ポイントほど高い。 ○事実を基に、指定された長さで自分の意見を明確にして書くことができていく。 ●条件に沿って、理由を述べながら自分の意見をまとめることに課題が見られる。	・資料から必要な情報を読み取り、その内容を自分の言葉で要約する活動を行う。また、読み取った内容から考えたことを表現する活動を、様々な教科で取り入れていく。 ・作文の学習では、字数や段落構成の条件を与えながら、書く練習を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市と比較して3ポイントほど高い。 ○物語文の読み取りについて、どの問題においても市の平均を上回っている。 ●説明文の読み取りにおいては、市の平均を上回っているが、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。	・説明文の読解では、文章全体の構成を考える活動をしっかり行い、筆者の考えの中心がどこかを的確に捉えられるように継続して指導していく。 ・引き続き、読書活動を励行し、読解力を高めるようにしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.2	60.5	65.8
	農業や水産業	65.4	63.3	66.0
	工業生産	83.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	88.2	83.8	76.6
	日本の政治	79.9	74.9	74.1
	日本の歴史	74.8	66.3	68.3
観点別	知識・技能	74.0	69.3	71.4
	思考・判断・表現	73.4	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

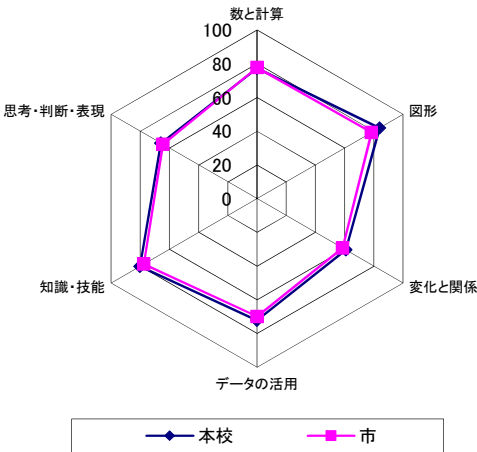
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を若干上回っている。 ○日本の海岸線が長い理由を説明する問題の正答率が、市の平均正答率を12.5ポイント上回っている。 ●海洋名、季節風、間伐について理解を問う問題の正答率が、市の平均正答率を下回っている。折に触れて復習を行う必要があると考えられる。 ●公害について理解を問う問題の正答率が、市の正答率を上回ったが低い。身近ではないため理解が低かったと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・白地図にまとめたり、機会を捉えて復習を行う。 ・公害については、デジタル教材や図書、動画資料などを用いて、理解が深められるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を若干上回っている。 ○日本の食料自給率に関する問題の正答率が、市の平均を16.6ポイント上回っている。 ●食料を輸入に頼ることの問題点に関する問題の正答率が、市の平均正答率を下回っている。社会的事象の理解だけでなく、課題や解決策を考えさせる必要があると考えられる。	・学習内容を総合して表現する活動を取り入れることで、知識の定着及び多面的・多角的に社会的事象を考えることができるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○自動車生産に関する問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ○日本の主な輸出入品に関する問題の正答率が、市の平均正答率を10.2ポイント上回っている。	・引き続き、動画資料や出前授業などを通して、理解を深めることができるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点に関する問題の正答率が極めて高い。 ○産業における情報活用の現状に関する問題の正答率が、市の平均を上回っている。	・引き続き、情報機器を利用した日常的指導、動画資料や出前授業などを通して、理解を深めることができるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○平和主義の基本的考え方に関する問題の正答率が極めて高い。 ○基本的人権の尊重に関する問題の正答率が、市の平均を上回っている。 ○資料から租税の役割や、議会政治について考える問題の正答率が、市の平均を上回っている。	・引き続き、動画資料や出前授業などを通して、理解を深めることができるようにする。 ・知識の定着とともに、資料の読み取りや様々なまとめ方を経験させることで、思考力・表現力をさらに高めることができるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を8.5ポイント上回っている。 ○縄文～平安時代に関する問題の正答率が、市の平均正答率を大きく上回っている。 ○安土桃山～江戸時代に関する問題の正答率が、市の平均正答率を上回っている。 ●御家人の意味を問う問題の正答率が、市の平均正答率を下回っている。語句の理解に留まり、意味の理解が不十分であったと考えられる。	・学習内容を総合して表現する活動を取り入れることで、知識の定着及び多面的・多角的に社会的事象を考えることができるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.4	77.7	78.6
	図形	83.9	78.4	74.4
	変化と関係	60.8	58.7	53.0
	データの活用	72.2	69.9	57.2
観点別	知識・技能	80.2	77.5	74.0
	思考・判断・表現	65.8	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

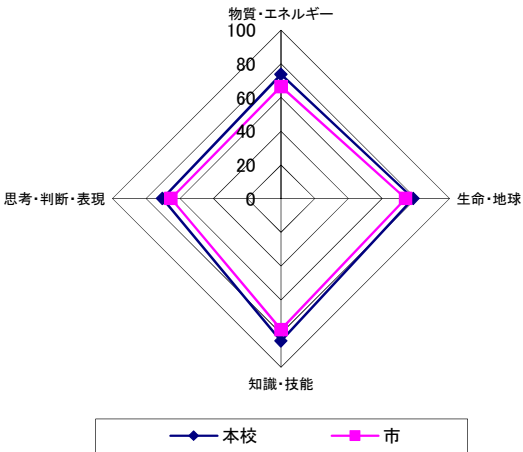
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市と比較して0.3ポイント低い。 ○小数の乗法・除法、分数の減法においては、平均正答率が市の平均を上回っている。 ●分数の乗法・除法の問題においては、いずれも市の平均正答率を10ポイントほど下回っている。また、テープ図を参考にしながら、分数の計算を答える問題でも、市の平均正答率よりも若干低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き基本的な計算の力を身に付けられるよう、朝の学習、少人数指導等の時間を活用して、継続して指導していく。 ・図で表したり、説明したりする活動を繰り返し行い、数量関係を正しく図や式に表す力を育てる。 ・下学年から問題を図で表したり、説明したりする活動を十分に行い、積み重ねていく。
図形	平均正答率は、市と比較して5.5ポイント高い。 ○ひし形の面積を求める式を答える問題や四角形の内角の和の求め方を説明する問題では、平均正答率が市の平均を10ポイント以上大きく上回っている。また、合同な三角形を作図する問題においては、正答率が100%である。 ●円の面積や三角柱の体積を求める問題では、若干ではあるが、市の平均正答率よりも下回っている。	・公式を単純に覚えさせるだけではなく、公式の導き方も理解できるようにしていく。 ・問題に答えるときは、文章を読むだけではなく、必要な図形を描いたり、補助線を引いたりできるように普段の授業の中で継続して指導していく。
変化と関係	平均正答率は、市と比較して2.1ポイント高い。 ○割合の設問で、割引後の値段を求める式を選ぶ問題においては、市の平均を9.6ポイント上回っている。 ●表から面積と人数の割合を求め、混みぐあいを答える問題では、正答率が市の平均よりも下回っている。	・わり算とはどのようなものかということを、中学年からしっかりと理解できるように指導していく。 ・文章や表をじっくり読み、問題の意図を正しく理解して課題に取り組もうとする力を育てていく。 ・問題の示す値が、基準量・比較量・割合のどれにあたるのかを正しく理解できるよう、意識づけする。
データの活用	平均正答率は、市と比較して2.3ポイント高い。 ○ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題や度数分布表を完成させる問題では、正答率が5ポイント以上市の平均を上回っている。 ●ヒストグラムを読み取って説明する問題では、正答率は41.2%と低く、市の平均も下回っている。	・社会科等他教科の学習資料や新聞などを活用して繰り返しデータの見方を確認することで理解を深め、活用する力を育てる。 ・日常生活と関連させながら、データの活用の有用性や必要性についても理解を深めるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.7	66.5	66.3
	生命・地球	78.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	84.5	77.6	78.2
	思考・判断・表現	70.2	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は、市の平均を大幅に上回っている。 ●水溶液の性質では、水溶液の特徴を区別したり、比較したりして種類を特定することはできた。しかし、特定する方法の理解が不十分だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験結果を予想するだけでなく、どのように実験すれば疑問を解決できるのか考えさせるようにする。 ・実験するだけで終わらず、まとめたり分析したりすることで、理解の定着を図る。 ・実験を通して、基礎的知識の定着が図られているので、今後も児童たちが身近な自然現象を体感できるように、実験機会をしっかりと確保していく。
生命・地球	○平均正答率は、市の平均を上回っている。 ●理解力はあるが、観察結果から推測したり、指摘したりすることがやや苦手である。	・児童の理解の充実を図るために、観察・実験などを行うとともに、映像や模型、ICT機器を活用していく。 ・観察・実験するだけでなく、その結果を生活場面に置き換えて理解を深め、考える力をつける。

宇都宮市立宮の原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	・3年生以上への質問で、授業が分かると答えた割合が3年生・5年生・6年生で市の平均よりも高かった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー＆振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	・3年生以上の家庭学習の時間について、どの学年も市の目標時間を上回る時間取り組んでいる児童が多かった。 ・3～6年生の質問「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した児童の割合が、どの学年も市の平均より高くなった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	・「グループなどでの話し合いに自分から積極的に参加していますか」の質問に対する肯定割合はすべての学年で市の平均を上回った。 ・3年生以上の質問「自分の考えを理由・根拠をあげながら話すことができる」の質問に対する肯定割合は、全学年で市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・引き続き、分かる授業を心掛け、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、ICTも上手に活用しながら、主体的に学ぶ児童の育成を図っていく。
- ・家庭学習については、強化週間等の取組を継続しながら、家庭とも連携し、更なる内容の充実にも取り組んでいく。
- ・話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習活動を工夫し、ものごとをいろいろな視点や立場から考えたり、じっくり自分の考えまとめたりする力を育んでいく。
- ・発展的・応用的な問題に対応する力を伸ばすために、発展的な応用問題を積極的に取り上げたり、習熟度別学習の機会を生かして、児童が意欲的に発展的な問題に取り組めるような機会を増やしたりしていく。また、記述問題に対応できる力が身に付くよう、まとめやふりかえりの場面等で日頃から書くこと意識させ、思考力・表現力の育成に努めていく。